

整理番号	02-0949
区分 (事務局記入欄)	<input type="checkbox"/> 臨床研究(<input type="checkbox"/> 受託・共同 <input type="checkbox"/> 院内) <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 医薬品 <input type="checkbox"/> 医療機器 <input checked="" type="checkbox"/> その他

医学研究に関する情報公開文書

西暦 2024年 9月 9日

研究課題名	悪性を疑う IPMN 切除例における worrisome features/細胞診/病理診断の比較検討
研究実施期間	開始 西暦 2024年 10月 2日 ~ 終了 西暦 2025年 4月 30日 (予定)
研究の対象となる方 (予定症例数)	2010年1月~2023年12月に当センターで手術された IPMN 症例 (予定症例数: 60例)
研究の目的・方法	当院では、IPMN に対する切除適応の決定は、基本的に国際ガイドラインに準じている。しかし、手術リスクの観点からは、IPMN に対する膵切除は少なくとも高度異型以上の悪性症例にのみ施行されることが理想的とされている。悪性化しているか否かの評価は非常に困難で、現行の Worrisome features (WFs) を用いた切除適応では、組織学的に低~中等度異型に留まる症例も散見される。当院における Tis/T1 を疑い切除した IPMN 例における術前評価と病理診断についての比較検討を行った。 2010~2023年に切除された IPMN 症例は60例であったが、明らかな進行癌の診断で切除した11例を除き、T1/Tisの可能性を疑い切除した49例(年齢中央値は71歳 [51-86]、男/女=32/17)を対象とした。術前評価における HRSs、WFs と膵液細胞診結果を最終病理診断と比較検討した。
研究に用いる試料・情報の種類	IPMN 症例のうち、T1/Tisの可能性を疑い切除した49例において、術前評価における HRSs、WFs と膵液細胞診結果を最終病理診断と比較検討した。
問い合わせ先	<ul style="list-style-type: none">・本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。・ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。・また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には、研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 <p>地方独立行政法人市立東大阪医療センター 研究責任者: 消化器外科 <主任医長> 中島 慎介 住所: 大阪府東大阪市西岩田三丁目4番5号 TEL: 06-6781-5101</p>